

多良間島・水納島の鳥類

Birds in the Tarama Area, Southwest of Miyako Island, the Ryukyu Archipelago

久 貝 勝 盛 (沖縄県立伊良部高等学校)

はじめに

多良間島については植物、昆虫(蝶類)、陸産貝に関する調査報告はいくらかあるものの、鳥類についてのまとまった報告はない。生物学的な調査報告は極めて少ないのである。特に水納島に関しては皆無である。

今回、新聞報道等、確実な写真記録等を参考に1980年8月、1983年8月、1993年6月、1994年10月、1997年10月の調査結果を踏まえて多良間、水納、両島の鳥類をまとめた。水納島で記録された鳥類には(M)を付けた。

なお、水納島については植物リストも付け加えた。

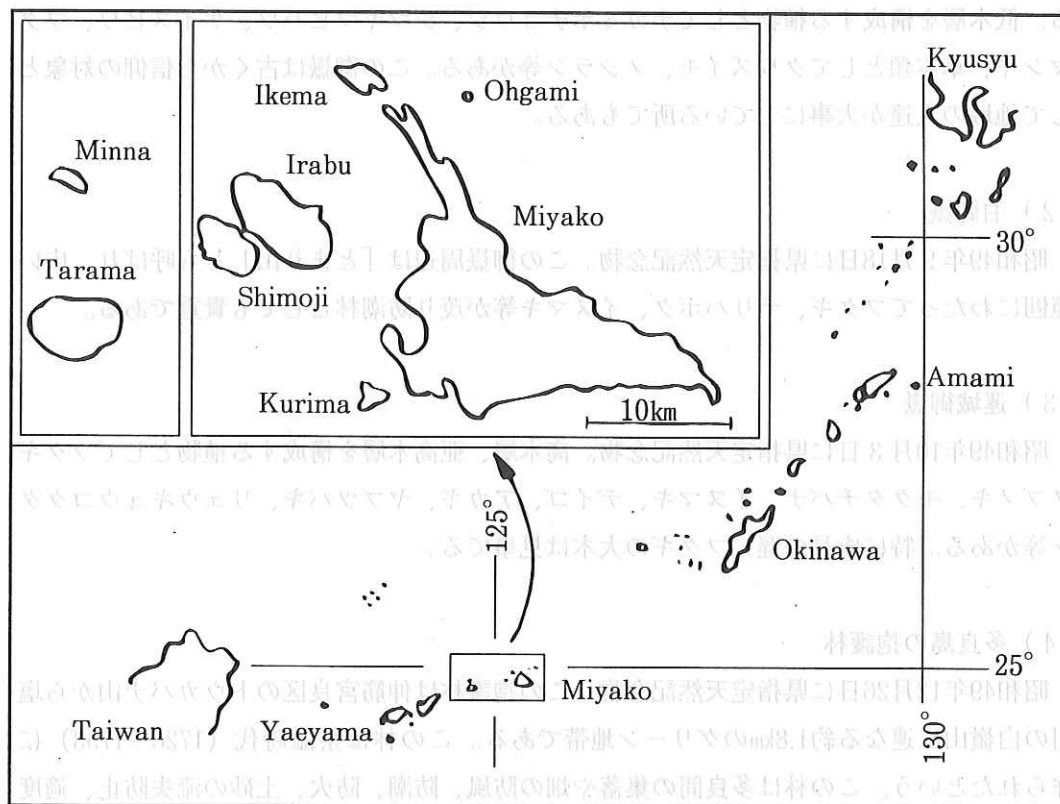


Fig.1 The map showing the Miyako Islands.

多良間島の自然概観

宮古島と石垣島の間（北緯24° 42′、東経124° 42′）に位置し、東西約8km、南北に約6kmの楕円形の島である。面積は19.98平方km。島全体が標高約10mの平坦な島で層厚が約60mにも達する琉球石灰岩より成り立っている（古川1983）。最も高い所で34.4m（1983、沖縄大百科事典）。島の内部はほとんどが耕作地として利用されている。植物相では固有種はないという（1983、沖縄大百科事典）。

多良間村は多良間島と、その北西約10kmに浮かぶ水納島の二島からなる。人口は約1500人である。

多良間島で緑が残されている地域は御嶽周辺で、そのほとんどの御嶽が村や県の天然記念物になっている。緑が比較的良好に保たれている所を4ヶ所取り上げて簡単に紹介したい。

(1) 塩川御嶽

昭和49年10月3日に県指定天然記念物。高木層、亜高木層を構成する植物として直径30cm前後のイヌマキ、直径40cm前後のアカギ、直径20cm前後のリュウキュウコクタン等がある。低木層を構成する植物としてナガミボチョウジ、シマヤマビハツ、ケイヌビワ、フクマンギ、草本類としてクワズイモ、ノシラン等がある。この御嶽は古くから信仰の対象として地域の人達が大事にしている所でもある。

(2) 泊御嶽

昭和49年9月18日に県指定天然記念物。この御嶽周辺は「とまり山」とも呼ばれ、広い範囲にわたってフクギ、テリハボク、イヌマキ等が茂り防潮林としても貴重である。

(3) 運城御嶽

昭和49年10月3日に県指定天然記念物。高木層、亜高木層を構成する植物としてフクギ、タブノキ、モクダチバナ、イヌマキ、デイゴ、アカギ、ヤブツバキ、リュウキュウコクタン等がある。特に成長の遅いフクギの大木は見事である。

(4) 多良島の抱護林

昭和49年12月26日に県指定天然記念物。この抱護林は仲筋宮良区のトウカパナ山から塩川の白嶺山に連なる約1.8kmのグリーン地帯である。この林は祭温時代（1728～1753）に作られたという。この林は多良間の集落や畑の防風、防潮、防火、土砂の流失防止、適度

の温度、湿度のコントロール等、その役割は大変に大きい。構成樹種はフクギを主体にテリハボク、モクダチバナ、イヌマキ、アカテツ、タブノキ、リュウキュウコクタン等がある。

このように多良間の御嶽周辺は天然記念物指定でしっかり保護されているが、その他の所では道路拡張工事や畑の基盤整備等で緑の減少が危惧される。ちなみに宮古諸島の森林減少率は以下のとおりである(表1)。なお、ここでいう森林率というのは各市町村の面積(宮古支庁、宮古概観、1996)で同じく各市町村の森林面積(県企画開発部、離島関係資料、1998)を除いたものである。

この資料からすると1955年の森林率では平良市が30%、城辺町が21%、下地町が25%、上野村が17%、伊良部町が28%、多良村が39%あったが、復帰後、急激に減少している。39年後の1994年には森林率が平良市で17%、城辺町で16%、下地町で13%、上野村で11%、伊良部町で16%、多良間村で24%となって、どの市町村も1955年当時の森林率の約半分に落ち込んでしまった。

1994年時点で宮古諸島の森林率は16.3%、県全体では47%、全国では67%で宮古諸島の森林率がいかに低いかという事がわかる。

一方、1961年から1994年までの各市町村別の森林増減率は平良市で6%減、城辺町で16%減、下地町で10%減、上野村で20%減、伊良部町で57%減、多良間村で3%増になっている(1996、仲間)。

これからすると多良間村を除く市町村の緑がいかに大きく減少しているかという事がわかる。

仲間(1996)によれば1950年代から1970年代にかけては森林面積は全体的に増加傾向にあり、復帰後は復帰前の約半分に減っているという。また、一般的に自然、生態、人間を含めた適正規模の考え方からすると森林率が30%を割ると森林のレイアウトにもよるが、人間の生活感性や生物相にも大きな影響が現れてくるという。多良間島の緑は24%であるが、島が小さいだけに、どこかでそのツケが現れてくる可能性がある。例えば害虫の異常発生、地下への水の浸透能力の低下等、多良間の生物生態系への影響が懸念される。

宮古諸島はどこでも言える事だが、多良間のこれからの大きな課題の一つはいかにして水源涵養林、防風、防潮林を含む緑を増やし開発と自然を調和させるかという事だろう。

表1 宮古諸島市町村別面積及び森林面積と森林率の変遷

市 町 村	面 積 単位(ha)	1995年		1961年		1994年		
		森林面積 (単位 ha)	森 林 率 (単位 %)	森林面積 (単位 ha)	森 林 率 (単位 %)	森林面積 (単位 ha)	森 林 率 (単位 %)	
平 良 市	6,459 (ha)	1,926(ha)	30(%)	1,497(ha)	23(%)	1,099(ha)	17(%)	
城 辺 町	5,760	1,164	21	1,843	32	911	16	
下 地 町	2,339	594	25	545	23	298	13	
上 野 村	1,896	320	17	585	31	212	11	
伊良部町	3,920	1,104	28	2,849	73	635	16	
多良間村	2,256	890	39	473	21	535	24	
合 計	22,630	5,998	27	7,792	34	3,670	16	
(宮古諸島)								
宮古本島								16

(仲間 1996、宮古島の地下水と森林環境の保全 p64 改編)

多良間の鳥類相

宮古島から約57km、石垣島から約59km離れ宮古と石垣のほぼ中間地点に位置する多良間島は渡り鳥、特に山野の鳥の重要な渡りの中継地点になっている。しかし、島が小さく、平坦で山も川もないという事で研究者があまり関心を示さず調査らしい調査もなされていない。したがってまとまった生物学的な調査報告書は皆無である。

前述のように多良間島は島が小さいので留鳥そのものは少ないが、渡りの時期には南西

諸島で見られるほとんどの渡り鳥を観察する事ができる。

留鳥としてスズメ、メジロ、ミフウズラ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、キジバト、カラスバト、セッカ、ズアカアオバト、クロサギ、バン、リュウキュウヨシゴイ、オオクイナ、ヒクイナ等がある。夏鳥としてアカショウビン、サンコウチョウ、エリグロアジサシ、ベニアジサシ、クロアジサシ等がある。冬鳥としてシロハラ、アカハラ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、オナガガモ等がある。旅鳥としてサシバ、アカハラダカ、ツミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、クロジ、ジョウビタキ、エゾビタキ、キビタキ、メボソムシクイ、アカヒゲ、キョウジョシギ、イソシギ等がある。迷鳥、珍鳥としてヤツガシラ、カラムクドリ、ホシムクドリ、キマユムシクイ等がある。

多良間島にはシギ・チドリ類が好む入り組んだ干潟がなく、渡来数も少ない。しかし、山野の鳥は島の面積が小さい割には多く観察されている。この事は鳥そのものが大事な渡りの中継地になっていることを示す。なお、多良間島では42科129種の鳥類を記録した。その内訳は水辺の鳥60種、山野の鳥69種である。また、多良間島では留鳥17種、13%、渡り鳥112種、87%である。多良間島の鳥類相の特徴は観察される山野の鳥はそのほとんどが採餌中あるいは休息中であるが水鳥はそのほとんどが飛翔中であるという事である。この事は水鳥の好む水辺環境が乏しいという事を意味する。

秋の風物詩で知られるサシバとアカハラダカの渡りも規模はそれほど大きくないが、そのシーズン中は結構見られる。

分布的に興味深い鳥類の記録

キンバト (ハト科) *Chalcophaps indica*

背と雨覆が金緑色で風切りが黒い。雄は頭が青灰色で額が白い。雌は全体的に色が淡い。泊御嶽や塩川御嶽等のようなよく茂った林を好む。多良間島を含めて宮古諸島のキンバトは自然分布なのか人為的分布なの定かでないが、現在のところ宮古諸島が分布の北限である。国指定天然記念物。環境庁、県の絶滅のおそれのある野性生物のカテゴリーでは共に絶滅危惧種。国内希少種。

コグンカンドリ (グンカンドリ科) *Fregata ariel*

亜熱帯から熱帯地域にかけて分布し世界で5種類いるが、日本にはオオグンカンドリとコグンカンドリの2種類が迷行してくる。雄の成鳥は体全身が黒く背面に白斑がでる。のどが赤い。腹部は白色。多良間島近海で時々見られる。

アカガシラサギ (サギ科) *Ardeola bacchus*

中国南部で繁殖し、冬期にはインドシナ半島あたりへ移動する。夏羽では頭と首が赤みがかかる。背面は灰色である。冬期は頭と首に黄褐色の縦斑が点在する。嘴の先端部は黒色で基部は黄色。水田、沼、草地等で両生類、魚類等を捕る。多良間島では冬羽が1994年10月に記録された。

カンムリワシ (ワシタカ科) *Spilornis cheela*

1980年11月と1985年10月に多良間島寄りの洋上で目撃記録された。地元の故老達の話によると冬場にまれに見られるとの事。この件についてはいつかの機会に詳しく調査したい。環境庁、沖縄県共に絶滅危惧種。迷鳥。

チゴハヤブサ (ハヤブサ科) *Falco subbuteo*

地上近くを低く速く飛び驚いて逃げまどう小鳥類を捕らえる。飛び方は直線的で羽ばたきとグライデングを交える。北海道、本州北部で繁殖し林や農耕地、草地などで生活する。宮古諸島では最初に渡ってくるハヤブサ科の鳥である。

オオアジサシ (カモメ科) *Sterna bergii*

多良間島では沖縄諸島で見られるほとんどのアジサシ類を見る事ができる。夏羽は頭頂部に冠羽をもつ。嘴は太くて黄色。脚は黒色。多良間島近海では夏場に時々見られる。

ハジロクロハラアジサシ (カモメ科) *Sterna leucoptera*

春秋の渡り時に時々、多良間島空港近くの水溜まりで見られる。観察される個体はほとんどが冬羽である。

クロハラアジサシ (カモメ科) *Sterna hybridã*

ハジロクロハラアジサシと一緒に多い。観察される個体はほとんどが冬羽である。

ヤツガシラ (ヤツガシラ科) *Upupa epops*

ヤツガシラの仲間は世界で一種、ユーラシア中南部、アフリカ、マダガスカル等に分布する。多良間では主に春の渡りの時に見られる迷鳥。昆虫類、トカゲ類を食べる。興奮すると冠羽をたてる。多良間島ではほぼ、毎年のように2月から3月にかけて見られる。

キレンジャク（レンジャク科）*Bonbycilla gorrulus*
1997年2月、長野で66羽が落下死したことで注目をあつめた。レンジャク類は世界で3種類。そのうちヒレンジャクとキレンジャクの2種類が宮古諸島では見られる。多良間島でもまれに記録される。

コムクドリ（ムクドリ科）*Sturnus philippensis*
日本には夏鳥として渡来し本州中部以北の山地の林で繁殖する。多良間島では春秋の渡り時に50～100羽の群れで見られる旅鳥。サシバの渡る約一ヶ月前に見られる。

カラムクドリ（ムクドリ科）*Sturnus sinensis*
迷鳥として多良間島で時々見られる。開けた農耕地、市街地、人家周辺の林や電線でコムクドリの群れに混じって2～3羽程度見られる。全身が灰色がかった白色で尾羽と翼の先端部が黒い。目は白色。餌は地上でとるが木の実も食する。

ホシムクドリ（ムクドリ科）*Sturnus vulgaris*
一羽ないし数羽がムクドリやコムクドリの中に混ざる。体全身に星を散りばめたような黄白色の斑点がある。嘴は冬羽では黒く、夏羽では赤っぽい。

ハシブトガラス（カラス科）*Corvus macrorhynchos*
メス、オス全身黒色。ハシボソガラスとは嘴が太いことで区別できる。県内ではハシボソガラスは生息しない。1960年頃はハシブトガラスが宮古諸島どこでも見られたが、農薬の大量使用と緑の大幅な減少で今、宮古では伊良部島のみが生息している。多良間島では1972年頃を境にして見られなくなったという。現在、宮古本島と多良間島では消滅種。

アカヒゲ（ヒタキ科）*Erithacus komadori*
琉球列島の特産種である。男女群島や奄美諸島以南に分布する。雄は全体的に赤褐色でのが黒い。雌はのどの黒さがぬける。沖縄本島と慶良間諸島で見られるのは別亜種のホントウアカヒゲ、宮古諸島や八重山諸島で見られるのは別亜種のウスアカヒゲであるという。

違いは脇に黒斑がでるかでないかによる。黒斑が出るとホントウアカヒゲである。多良間島では春秋の渡りの時期に見られる。環境庁の絶滅の恐れのある野性生物のカテゴリーでは希少種。沖縄県では危急種。国指定天然記念物。国内希少種。

キマユムシクイ（ヒタキ科） *Phylloscopus inornatus*

大陸系の鳥である。春秋の渡りの時期に見られるが数は少ない。全体的に黄褐色。眉斑は黄白色。翼に二本の黄色味を帯びた横斑がでる。

クロジ（ホウジロ科） *Emberiza variabilis*

雄は全身が暗灰色で背中に黒褐色の縦すじがある。多良間島では旅鳥または冬鳥として渡来するが個体数は少ない。しげみの中から出てくることはなく、姿を見ることは少ない。昆虫類を餌にする。

カラスバト（ハト科） *Columba janthina*

ウウー、ウウーと牛のようになくので、ある地域では別名「牛バト」とも呼ぶ。全身黒っぽいのが紫や緑などの金属の光沢がある。嘴は黒く脚は赤い。多良間島では泊御嶽や運城御嶽等で見られるが数は極めて少ない。環境庁、県の絶滅の恐れのある野性生物のカテゴリーでは希少種。

オオクイナ（クイナ科） *Rallina eurizonoides*

宮古諸島を分布の北限地にする。上面は暗赤褐色。顔から胸にかけては赤茶色。のどが白く嘴は太めで黒色。脚は緑がかった灰色。梅雨期の頃に「クワッツ、クワッツ」と連続した声で鳴く。八重山では赤ん坊の泣き声に似ているところから「ファードウリ」とも呼ばれる。

イジマムシクイ（ヒタキ科） *Phylloscopus ijimae*

下面はくすんだ白色で淡い黄色を帯びる。眉斑は細長く黄色味のある白色。本州では夏鳥であるが、多良間島では迷鳥として春秋の渡りの時期に見られる。

トラツグミ（ヒタキ科） *Zoothera douma*

ハトより小さく体の上面は黄褐色で黒色の三日月形の横斑が一面に出る。のどから下面にかけての中央部は白い。尾羽の外側は黒褐色で先端が白い。数は少ないが渡りの時期に御嶽の林道等で時々見られる。

オオルリ（ヒタキ科） *Cyanoptila cyanomelana*

迷鳥。春秋の渡りの時期にまれに見られる。顔から上面にかけてブルー（ルリ色）。のどから胸にかけて黒色。

シマアオジ (ホウジロ科) *Emberiza aureola*

迷鳥。春秋の渡りの時期にまれに見られる。雄の夏羽は頭や顔が黒色で下面はあざやかな黄色。上面は濃い赤褐色。

オオジュリン (ホウジロ科) *Emberiza schoeniclus*

迷鳥。春秋の渡りの時期にまれに見られる。数は極めて少ない。スズメより大きく背面は褐色で黒い縦のすじがある。下面は白色。多良間島では空港近くの草原で見られた。

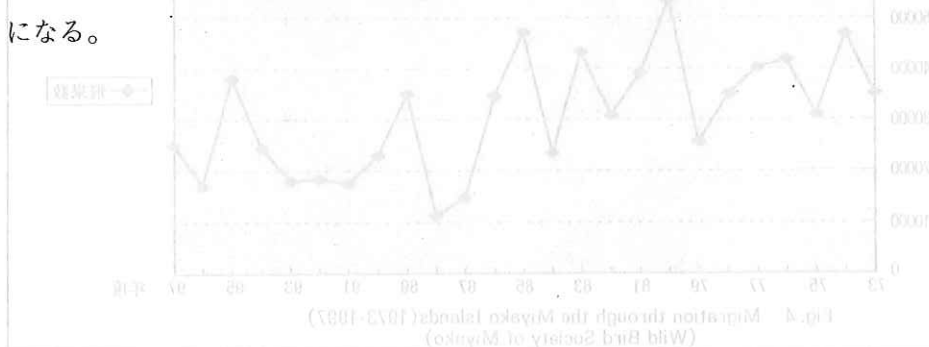
アカハラダカ (ワシタカ科) *Accipiter soloensis*

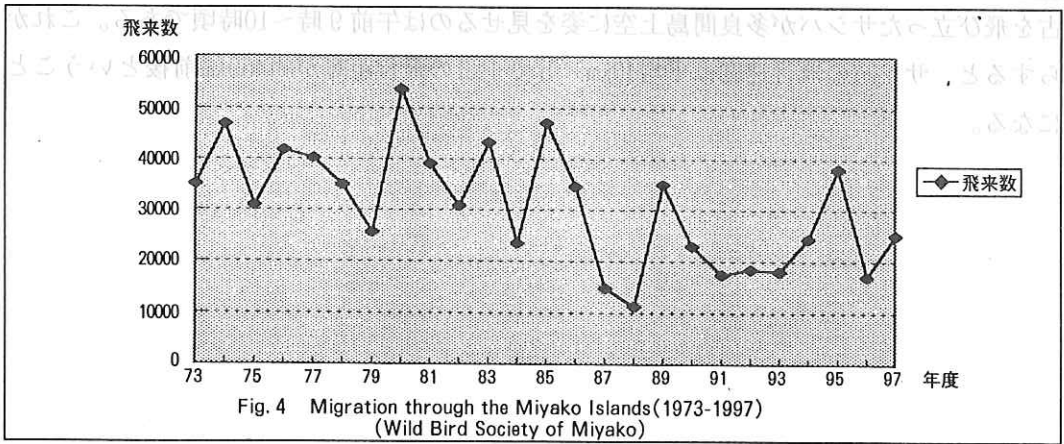
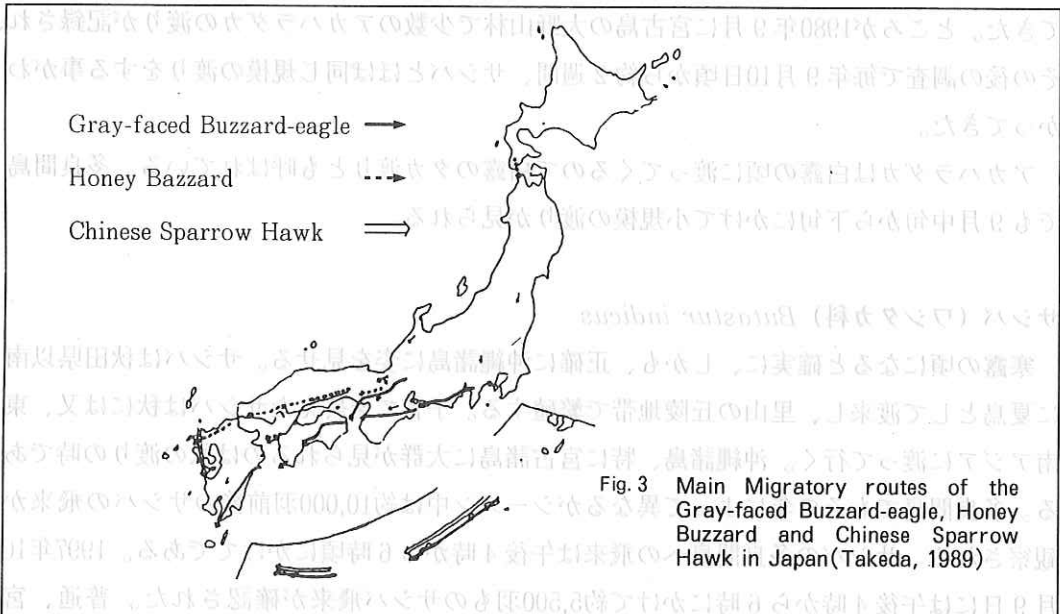
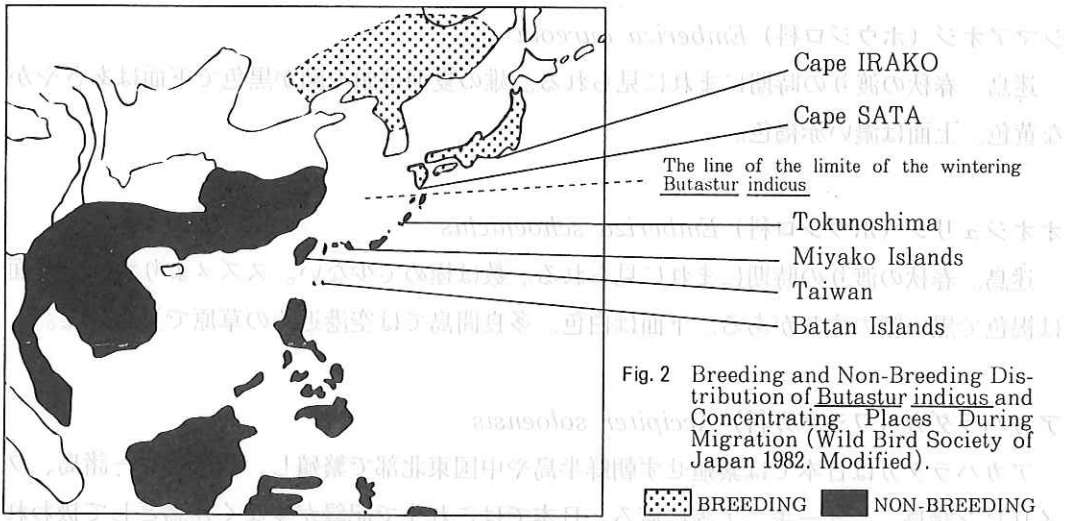
アカハラダカは日本では繁殖せず朝鮮半島や中国東北部で繁殖し、秋にマレー諸島、フィリピン諸島、ニューギニア等に渡る。日本ではこれまで記録が少なく迷鳥として扱われてきた。ところが1980年9月に宮古島の大野山林で少数のアカハラダカの渡りが記録され、その後の調査で毎年9月10日頃から約2週間、サシバとほぼ同じ規模の渡りをする事がわかってきた。

アカハラダカは白露の頃に渡ってくるので白露のタカ渡りとも呼ばれている。多良間島でも9月中旬から下旬にかけて小規模の渡りが見られる。

サシバ (ワシタカ科) *Butastur indicus*

寒露の頃になると確実に、しかも、正確に沖縄諸島に姿を見せる。サシバは秋田県以南に夏鳥として渡来し、里山の丘陵地帯で繁殖する。子育てを終えたサシバは秋には又、東南アジアに渡って行く。沖縄諸島、特に宮古諸島に大群が見られるのは秋の渡りの時である。多良間島でもその年によって異なるがシーズン中は約10,000羽前後のサシバの飛来が観察される。サシバの多良間島への飛来は午後4時から6時頃にかけてである。1997年10月9日には午後4時から6時にかけて約5,500羽ものサシバ飛来が確認された。普通、宮古を飛び立ったサシバが多良間島上空に姿を見せるのは午前9時~10時頃である。これからすると、サシバの飛行速度は平均40km/hで1日の飛行距離が約450km前後ということになる。





宮古諸島で見られるサシバの過去25年間の平均は30,800羽であるが、その飛来数の約90%は伊良部への飛来である(図4)。この事からすると伊良部という島がサシバにとっていかに重要な渡りの中継地点になっているかという事がわかる。

渡り鳥の集団渡来地では世界各国、各地同じであるが、鳥と人々とのタンパク源としてのつながりが深い。特に、宮古諸島のように山や川のない自然環境の乏しい所では集団渡来するサシバとの結びつきは極めて強い。宮古諸島の住民達は世界の何処にも類のないような宮古島独特のサシバ捕獲装置(ツギヤ)を造り効率的な捕獲方法を考え出したのである。多良間島でも多くのツギヤが造られた。サシバのシーズン中は島中が燃えた。大人も子供も血が騒いだ。皆、こぞってサシバ捕獲に繰りだした。サシバ捕獲は島人達の年に一度の楽しいハンテングになった。捕獲されたサシバは食糧にしたり、子供達の遊び玩具となった。市場にも売りに出された。そのシーズン中の貴重な換金動物にもなった。サシバが保護鳥に指定される以前には、ごく当たり前サシバ捕獲がなされたのである。

しかし、サシバが保護鳥に指定され、サシバ保護の機運が高まると、沖縄県環境保健部は毎年10月1日から31日をサシバ保護月間と定め、宮古市町村会、宮古野鳥の会、県鳥獣保護員、宮古警察署等の協力を得て強力な保護運動の取り組みを開始した。それに触発されて、だんだんサシバ密猟はなくなってきた。

以前(1930年代)、宮古諸島では、かなりの数のサシバが空を覆ったというが、近年、繁殖地の乱開発や中継地、越冬地での緑の減少、乱獲等でサシバの個体数が減少してきた。こういう現状をどうにかしなければという地域住民の心と県の政策が一つになったのである。

List of the Birds in the Tarama and Minna Area

多良間島、水納島の鳥類目録

留 鳥

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

カイツブリ *Podiceps ruficollis* (沖縄県では希少種)

サギ科 ARDEIDAE

リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus* (沖縄県では希少種)

クロサギ *Egretta alba* (M)

ミフウズラ科 TURNICIDAE

ミフウズラ *Turnix suscitator* (沖縄県では希少種) (M)

クイナ科 RALLIDAE

オオクイナ *Rallina eurizonoides* (環境庁、沖縄県共に危急種)

ヒクイナ *Porzana fusca* (別亜種のリュウキュウヒクイナ *Porzana fusca phaeopyga* も見られ沖縄県では希少種)

バン *Gallinula choropus*

ハト科 COLUMBIDAE

キジバト *Streptopelia orientalis* (M)

キンバト *Chalcophaps indica* (国指定天然記念物。環境庁、沖縄県共に絶滅危惧種。国内希少種)

ズアカアオバト *Sphenurus formosae*

カラスバト *Columba janthina*

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (M)

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* (M)

セッカ *Cisticola juncidis* (M)

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

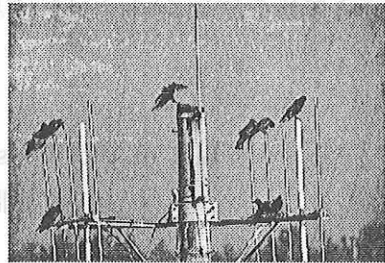
メジロ *Zosterops japonica*

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

スズメ *Passer montanus*

カラス科 CORVIDAE

リュウキュウハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* (1960年頃はよく見られたが1972年頃を境にして見えなくなったという。現在、宮古島、多良間島では消滅種)



宮古諸島では伊良部のみに生息するリュウキュウハシブトガラス

夏 鳥

カツオドリ科 SULIDAE

カツオドリ *Sula leucogaster* (沖縄県では希少種) (M)

繁殖の確認はないが夏場によく見られる

ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE

ツバメチドリ *Glareola maldivarum* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種)

繁殖の確認はないが夏場によく見られる

カモメ科 LARIDAE

コアジサシ *Sterna albifrons* (環境庁、沖縄県共に希少種) (M)

繁殖の確認はないが夏場によく見られる

ベニアジサシ *Sterna dougallii* (環境庁、沖縄県共に希少種) (M)

エリグロアジサシ *Sterna sumatrana* (環境庁、沖縄県共に希少種) (M)

クロアジサシ *Anous stolidus* (沖縄県では希少種) (M)

フクロウ科 STRIGIDAE

セレベスコノハズク *Otus scops elegans* (沖縄県では希少種)

アオバズク *Ninox scutulata*

カワセミ科 ALCEDINIDAE

アカショウビン *Halcyon coromanda*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

冬 鳥

ウ科 PHALACROCORACIDAE

カワウ *Phalacrocorax carbo*

ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

サギ科 ARDEIDAE

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

ササゴイ *Butorides striatus*

ダイサギ *Egretta alba* (M)

チュウサギ *Egretta intermedia* (環境庁、沖縄県共に希少種) (M)

コサギ *Egretta garzetta* (M)

アオサギ *Ardea cinerea* (M)

ムラサキサギ *Ardea purpurea* (沖縄県では危急種) めったに見られない

ガンカモ科 ANATIDAE

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

コガモ *Anas crecca*

ヒドリガモ *Anas penelope*

オナガガモ *Anas acuta*

シマアジ *Anas querquedula* めったに見られない

ハシビロガモ *Anas clypeata*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ミサゴ *Pandion haliaetus* (環境庁、沖縄県共に危急種) (M)

ツミ *Accipiter gularis* (別亜種のリユウキュウツミ *Accipiter gularis iwasa-akii* も見られ沖縄県では希少種)

ハヤブサ科 FALCONIDAE

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* (M)

クイナ科 RALLIDAE

オオバン *Fulica atra* (沖縄県では希少種)

カモメ科 LARIDAE

ユリカモメ *Larus ridibundus* 海上で時々見られる

ウミネコ *Larus crassirostris* 海上で時々見られる

フクロウ科 STRIGIDAE

コシミズク *Asio flammeus* めったに見られない

カワセミ科 ALCEDINIDAE

カワセミ *Alcedo atthis* (沖縄県では希少種)

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

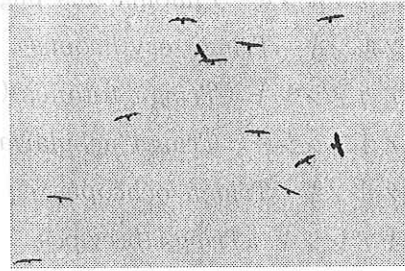
アカハラ *Turdus chrysolaus*

シロハラ *Turdus pallidus*

トラツグミ *Turdus dauma*

ウグイス *Cettia diphone*

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*



多良間島へのサシバの飛来(1997.10.9)

旅鳥

サギ科 ARDEIDAE

ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*

アマサギ *Bubulcus ibis* (M)



多良間島でのサシバ(成鳥)の
休息(1997.10.9)

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ハチクマ *Pernis apivorus*

アカハラダカ *Accipiter soloensis* (M)

サシバ *Butastur indicus* (一部冬鳥) (M)

ハヤブサ *Falco peregrinus* (環境庁、沖縄県共に危急種。国内希少種)

チドリ科 CHARADRIIDAE

コチドリ *Charadrius dubius*

イカルチドリ *Charadrius placidus*

シロチドリ *Charadrius alexandrinus* (沖縄県では希少種)

メダイチドリ *Charadrius mongolus*

オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*

ムナグロ *Pluvialis dominica*

ダイゼン *Pluvialis squatarola* 極めて少ない

シギ科 SCOLOPACIDAE

キョウジョシギ *Arenaria interpres*

トウネン *Calidris ruficollis*

オバシギ *Calidris tenuirostris*

エリマキシギ *Philomachus pugnax*

ツルシギ *Tringa erythropus*

アカアシシギ *Tringa totanus* (環境庁、沖縄県共に希少種)

アオアシシギ *Tringa nebularia* (M)

クサシギ *Tringa ochropus*

キアシシギ *Tringa brevipes*

イソシギ *Tringa hypoleucos* (M)

ソリハシシギ *Xenus cinereus*

ダイシャクシギ *Numenius arquata*

チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*

ヤマシギ *Scolopax rusticola*

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

セイタカシギ *Himantopus himantopus* (環境庁、沖縄県共に希少種)

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

ホトトギス科 CUCULIDAE

ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

アマツバメ科 APODIDAE

ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta*

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツバメ *Hirundo rustica* (M)

リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica*

セキレイ科 MOTACILLIDAE

ツメナガセキレイ *Motacilla flava*

セキレイ *Motacilla cinerea*

ハクセキレイ *Motacilla alba*

ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus*

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (別亜種のリユウキュウサンショウクイ
*Pericrocotus divaricatus tegimae*も見られ沖縄県では希少種)

モズ科 LANIIDAE

モズ *Lanius bucephalus*

アカモズ *Lanius cristatus* (M)

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

アカヒゲ *Erithacus komadori* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種。国指定天然記念物。国内希少種)

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*

ノビタキ *Saxicola torquta*

ツグミ *Turdus naumanni* (別亜種のハチジョウツグミ *Turdus naumanni naumanni*も見られる)

キビタキ *Ficedula narcissina* (別亜種のリユウキュウキビタキ *Ficedula narcissina owstoni*も見られ沖縄県では危急種)

エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (M)

コサメビタキ *Muscicapa latirostris*

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

ホウジロ科 EMBERIZIDAE

アオジ *Emberiza spodocephala*

クロジ *Emberiza variabilis*

アトリ科 FRINGILLIDAE

アトリ *Fringilla montifringilla*

ムクドリ科 STURNIDAE

コムクドリ *Sturnus philippensis* (M)

ムクドリ *Sturnus cineraceus*

迷鳥

グンカンドリ科 FREGATIDAE

コグンカンドリ *Fregata ariel* (M)

サギ科 ARDEIDAE

アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

カンムリワシ *Spilornis cheela*

ハヤブサ科 FALCONIDAE

チゴハヤブサ *Falco subbuteo*

カモメ科 LARIDAE

オオアジサシ *Sterna bergii* (環境庁、沖縄県共に希少種)

ハジロクロハラアジサシ *Sterna leucoptera*

クロハラアジサシ *Sterna hybrida*

セグロアジサシ *Sterna fuscata* (沖縄県では希少種)

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

ヤツガシラ *Upupa epops* (沖縄県では希少種)

レンジャク科 BOMBYCILIDAE

キレンジャク *Bombycilla garrulus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ムギマキ *Ficedula mugimaki*

キマユムシクイ *Phylloscopus inornatus*

センダイムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

イイジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

サメビタキ *Muscicapa sibirica*

ホウジロ科 EMBERIZIDAE

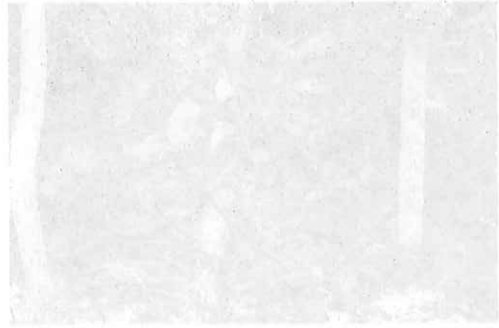
シマアオジ *Emberiza aureola*

オオジュリン *Emberiza schoeniclus*

ムクドリ科 STURNIDAE

カラムクドリ *Sturnus philippensis*

ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*



水納島の自然概観

水納島は多良間島の北西約10kmの所にあり面積は約2.15平方キロメートルである。人口は一家族4人である。牛の放牧等で生計を立てている。

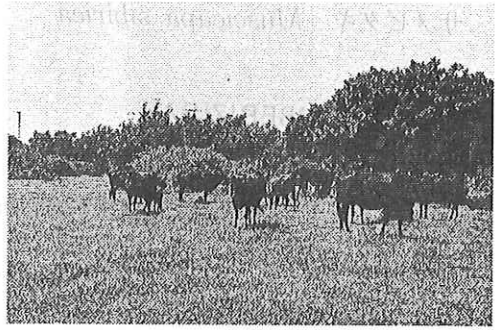
島全体の面積が小さいので生物相は極めて貧弱である。緑は水納港周辺のテリハボク林、島の東側のヘリポートや水納島燈台周辺に見られる。島の北海岸は牛の放牧と台風や冬場の季節風で潮枯れしたモクマオやモンパノキが目立つ。その北海岸から約20メートル位南側に入ったテリハボクの林の中に多良間村の天然記念物（史跡）にも指定されている鳥塚がある。ここではタカ（サシバ）と人間の心あたたまる交流を描いた次のような伝説がある。

昔、大和人（百合若、ユリワカ）が水納島に漂着して住んでいた。やがて秋になり、多くのタカ（サシバ）が島にも飛来するようになった。その中に彼が郷里にいる頃、飼っていた一羽のタカがいて羽に小さな粉袋をかけ、この百合若を忘れずに彼のもとに舞い降りてきた。彼は大変喜んで粉袋をはずして、その袋を広げ、指先を噛み切って血を出し、筆と硯の二文字を書いて放した。タカは彼の郷里に戻り筆と硯を袋に入れて飛んできたが、長い飛行と脚に結び付けた袋の重さに堪えかね、島に舞い降りるとすぐ息絶えてしまった。

彼は筆と硯を得て故郷に便りを出そうとしたがタカが死んでしまったので便りを送ることができなかった。しばらく死んでしまったタカを見つめながら泣いていたが墓を作って弔った。この漂着人のことを水納島では百合若大臣（ユイアカデーズ）といっている。伝えによると百合若は水納島に船を着け、木陰で昼寝をして疲れをとるつもりだったが、三日三晩も寝てしまい、その間に家臣達は百合若を残して郷里に帰ってしまった。この時から島では朝寝の過ぎる者をユイアカデーズというようになったという。（南海の宮古島、1978より）。



水納島の鳥塚 (1997.10.11)



水納島の放牧 (1997.10.11)
渡りの時期にはアマサギが群れる。

Flora in the Minna Island

水納島の植物リスト

シダ植物 Pteridophyta

イノモトソウ科 Pteridaceae

リュウキュウイノモトソウ *Pteris ryukyuensis* Tagawa

オシダ科 Aspidiaceae

ホシダ *Thelypteris acuminata* (Houtt.) Morton

種子植物 Spermatophyta

裸子植物 Gymnospermae

ソテツ科 Cycadaceae

ソテツ *Cycas revoluta* Thunb

モクマオウ科 Casuarinaceae

モクマオウ *Casuarina aquisetifolia* J.R.et J. G. Forst

クワ科 Moraceae

ガジュマル *Ficus microcarpa* L.f.

アコウ *Ficus superba* (Miq.) Miq.

var. *japonica* Miq.

ヤマグワ (シマグワ) *Morus australis* Poir.

イラクサ科 *Urticaceae*

カラムシ *Doehmeria nivea*(L) Gaudich

var. *nipponivea*(Koidz.)W.T.Wang

アオカラムシ *Doehmeria nivea*(L) Gaudich

f.*concolor*(Makino)*Hatsusima*,comb.nov.

ウマノスズクサ科 *Aristolochiaceae*

コウシュンウマノスズクサ *Aristolochia zollingeriana* Miq.

タデ科 *Polygonaceae*

ツルソバ *Polygonum chinense* L.

ギシギシ *Rumex japonicus* Houtt.

アカザ科 *Chenopodiaceae*

シロザ *chenopodium album* L.

ヒユ科 *Amaranthaceae*

ムラサキイノコヅチ *Achyranthes aspera* L.

var. *rubrofusca*(Wight)Hook.f.

イヌビユ *Amaranthus lividus* L.

スベリヒユ科 *Portulacaceae*

スベリヒユ *Portulaca oleraceae* L.

オシロイバナ科 *Nyctaginaceae*

ナハカノコソウ *Boerhavia diffusa* L.

キンポウゲ科 *Ranunculaceae*

リュウキュウボタンズル *Clematis grata* wall.

var. *ryukyuensis* Tamura

- クスノキ科 Lauraceae
スナズル *Cassytha filiformis* L.
- ハスノハギリ科 Hernandiceae
ハスノハギリ *Hernandia nymphaeaefolia*(Presl) Kubitzki
- ケシ科 *Papaveraceae*
シマキケマン *Corydalis tashiroi* Makino
- フウチョウソウ科 *Capparidaceae*
ギョボク *Crateva falcata*(Lour.)DC.
- アブラナ科 *Cruciferae*
ハマダイコン *Raphanus sativus* L.
f. *raphanistroides*(Makino)Makino
- ベンケイソウ科 *Crassulaceae*
セイロンベンケイ *Kalanchoe pinnata*(Lam.)Pers.
- トベラ科 *Pittosporaceae*
トベラ *Pittosporum tobira*(Thunb.)Dryand ex Aiton
- バラ科 *Rosaceae*
オキナワシャリンバイ *Rhaphiolepis indica*(L.)Lindle,ex Ker
ナワシロイチゴ *Rubus parvifolius* L.
- マメ科 *Leguminosae*
ハマナタマメ *Canavalia lineata*(Thnb.)DC.
エビスグサ *Cassia obtusifolia* L.
ハイマキエハギ *Desmodium triflorum*(L.)DC.
シイノキカズラ *Derris trifoliata* Lour.
デイゴ *Erythrina orientalis*(L.)Murr.
ナハエボシグサ *Indigofera trifoliata* L.

ヤハズソウ *Kummerowia striata*(Thunb.)Schindl.
 ギンネム *Leucaena leucocephala*(Lam.) de Wit.
 シマエンジュ *Maackia tashiroi*(Yatabe)Makino
 シナガワハギ *Melilotus suaveolens* Ledeb.
 クロヨナ *Pongamia pinnata*(L.)Pierre
 ヒメノアズキ *Rhynchosia minama*(L.)DC.
 イソフジ *Sophora tomentosa* L.

カタバミ科 Oxalidaceae

カタバミ *Oxalis corniculata* L.

ミカン科 Rutaceae

ヒラミレモン *Citrus depressa* Hayata

サルカケミカン *Toddalia asiatica*(L.)Lam.

ヒレザンショウ *Zanthoxylum beecheyanum* K.Koch

センダン科 Meliaceae

センダン *Melia azedarach* L.

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

シマヤマヒハツ *Antidesma pentandrum*(Blanco)Merr.

アカギ *Bischofia javanica* Bl.

オオシマコバンノキ *Breynia vitis-idaea*(Burm.f.)C.E.C.Fischer

ツゲモドキ *Drypetes matsumurae*(Koidz.)Kanehira

ハイニシキソウ *Euphorbia chamaesyce* L.

ハマダイゲキ *Euphorbia chamissonis*(Klotsh & Garcke)Boiss.

シマニシキソウ *Euphorbia hirata* L.

ミヤコジマニシキソウ *Euphorbia vachellii* Hook & Arn.

シマシラキ *Excoecaria agallocha* L.

オオバギ *Macaranga tanarius*(L.)Muell.-Arg.

コミカンソウ *Phyllanthus urinaria* L.

ヒマ *Ricinus communis* L.

アマミノヒトツバハギ *Securinega suffruticosa*(Pall.)Rehd.
var.*amamiensis* Hurusawa

ニシキギ科 Celastraceae

マサキ *Euonymus japonicus* Thunb

ハリツルマサキ *Maytenus diversifolia*(Maxim.)Ding Hou

ムクロジ科 Sapindaceae

アカギモドキ *Allophylus timorensis*(DC.)Bl.

コフウセンカズラ *Cardiospermum halicacabum* L.
var.*microcarpum*(HBK)Bl.

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

ヒメクマヤナギ *Berchemia lineata*(L.)DC.

ブドウ科 Vitaceae

エビズル *Vitis ficifolia* Bunge

シナノキ科 Tiliaceae

トガバリバツナソ *Corchorus aestuans* L.

アオイ科 Malvaceae

タカサゴイチビ *Abutilon indicum*(L.)Sweet

ブッソウゲ *Hibiscus rosa-sinensis* L.

オオハマボウ *Hibiscus tiliaceus* L.

エノキアオイ *Malvastrum coromandelianum*(L.)Garcke

キンゴジカ *Sida rhombifolia* L.

ハイキンゴジカ *Sida rhombifolia* L.

ssp.*insularis*(Htt.)Hatusima

オオバボンテンカ *Urena lobata* L.

オトギリソウ科 Guttiferae

テリハボク *Calophyllum inophyllum* L.

- フクギ *Garcinia subelliptica* Merr.
- パパイア科 Caricaceae
 パパイア *Carica papaya* L.
- ジンチョウゲ科 Thymelaeaceae
 アオガンピ *Wikstroemia retusa* A. Gray
- ミソハギ科 Lythraceae
 ミズガンピ *Pemphis acidula* J.R. & G. Forst
- シクンシ科 Combretaceae
 モモタマナ *Terminalia catappa* L.
- フトモモ科 Myrtaceae
 バンジロウ *Psidium guajava* L.
- セリ科 Umbelliferae
 ツボクサ *Centella asiatica* (L.) Urban
 チドメグサ *Hydrocotyle sibthorpioides* Lam.
- ヤブコウジ科 Myrsinaceae
 モクタチバナ *Ardisa sieboldii* Miq.
- サクラソウ科 Primulaceae
 ハマボッサ *Lysimachia mauritiana* Lam.
- イソマツ科 Plumbaginaceae
 イソマツ *Limonium wrightii* (Hance) O.K.
f. arbusculum (Maxim.) Hatusima
- アカテツ科 Sapotaceae
 アカテツ *Planchonella obovata* (R.Br.) Pierre

ガガイモ科 Asclepiadaceae

トウワタ *Asclepias curassavica* L.

ツルモウリンカ *Tylophora tanakae* Maxim.

ヒルガオ科 Convolvulaceae

アオイゴケ *Dichondra repens* Forst.

ノアサガオ *Ipomoea acuminata*(Vahl)Roem.& Schult.

ゲンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae*(L.)Sweet

ssp.*brasiliensis*(L.)Ooststr.

ムラサキ科 Boraginaceae

モンパノキ *Argusia argentea*(L.f.)H.Hein

フクマンギ *Carmona retusa*(Vahl)Masamune

マルバチシャノキ *Ehretia macrophylla* Wall. ex Roxb.

クマツヅラ科 Verbenaceae

オオムラサキシキブ *Callicarpa japonica* Thunb.

イボタクサギ *Clerodendrum inerme*(L.)Graertn.

イワダレソウ *Phyla nodiflora*(L.)Greene

タイワンウオクサギ *Premna corymbosa*(Burm.f.)Rottb.& Willd

var. *obtusifolia*(R.Br.)Fletcher

ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L.f.

シソ科 Labiatae

ヒメキランソウ *Ajuga pygmaea* A. Gray

ブソロイバナ *Anisomeles indica*(L.)O.K.

ヤンバルククルマバナ *Leucas mollissima* Wall. ex Benth.

var. *chinensis* Benth.

ナス科 Solanaceae

テリミノイヌホウズキ *Solanum americana* Mill.

キツネノマゴ科 Acanthaceae

キツネノマゴ *Justica procumbens* L.
var. *hayatae*(Yamamoto)Ohwi
リュウキュウウロコマリ *Lepidagathis inaequalis* C.B.Clarke ex Elm.

オオバコ科 Plantaginaceae
オオバコ *Plantago asiatica* L.

アカネ科 Rubiaceae
シマソナレムグラ *Hedyotis paniculata*(L.)Lam.
ヤエヤマアオキ *Morinda citrifolia* L.
コンロンカ *Mussaenda parviflora* Miq.
ヘクソカズラ *Paederia scandens*(Lour.)Merr.
ナガミボチヨウジ *Psychotria manillensis* Bartle.ex DC.

クサトベラ科 Goodeniaceae
クサトベラ *Scaevola taccada*(Gaertn.)Roxb.

キク科 Compositae
カワラヨモギ *Artemisa capillaris* Thunb
ホウキギク *Aster subulatus* Michx.
コシロノセンダングサ *Bidens pilosa* L.
var. *minor*(Bl.)Sherff
シロノセンダングサ *Bidens pilosa* L.
(アワユキセンダングサ) var. *radiata* Sch.-Bip.
イリオモテアザミ *Cirsium brevicaule* A. Gray
var. *irumtiense*(Kitam.)Kitamura

アレチノギク *Conyza bonariensis*(L.)Cronq.
ウスベニニガナ *Emilia sonchifolia*(L.)DC.
アキノノゲシ *Lactuca indica* L.
キダチハマグルマ *Wedelia biflora*(L.)DC.
オニタビラコ *Youngia japonica*(L.)DC.

単子葉植物 Monocotyledoneae

タコノキ科 Pandanaceae

アダン *Pandanus odoratissimus* L.f.

イネ科 Gramineae

コブナグサ *Arthraxon hispidus*(Thunb.)Makino

ダンチク *Arundo donox* L.

ヒメアブラススキ *Capillipedium*(R.Br.)Stapf

クリノイガ *Cenchrus brownii* Roemer et Schult

タツノツメガヤ *Dactyloctenium aegyptium*(L.)Beauv.

メヒシバ *Digitaria ciliaris*(Retz.)Koel

オヒシバ *Eleusineindica*(L.)Gaertn.

ニワホコリ *Eragrostis multicaulis* Steud

チガヤ *Imperata cylindrica*(L.)Beaev.

イトアゼガヤ *Leptochloa panicea*(Retz.)Ohwi

ススキ *Miscanthus sinensis* Anderss.

ハイキビ *Panicum repens* L.

ナピアグラス *Pennisetum purpureum* Schumach

ザラツキエノコログサ *Setaria verticillata*(L.)Beauv.

エノコログサ *Setaria viridis*(L.)Beauv.

ハマエノコロ *Setaria viridis*(L.)Beaev.
var.*pachystachys*(Fr. & Sav.)Makino & Nemoto

ツキイゲ *Spinifex littoreus*(Brum.f.)Merr.

ネズミノオ *Sporobolus fertilis*(Steud.)W.D.Clayton

クロイワザサ *Thuarea involuta*(G.Forst)R.Br.ex Roem.& Schult

コウライシバ *Zoysia matrella*(L.)Merr.

var.*pacifica* Goudswaard

カヤツリグサ科 Cyperaceae

コゴメスゲ *Carex brunnea* Thunb

ヒメクグ *Cyperus brevifolius*(Rottb.)Hassk

var.*leiolepis*(Fr.et Sav.)T.Koyama

ハマスゲ *Cyperus rotundus* L.

シオカゼテンツキ *Fimbristylis cymosa*(Lam.)R.Br.

ヤリテンツキ *Fimbristylis ovata*(Burm.f.)Kern

シマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq.ex Fr. & Sav.
var.*anpinensis*(Hayata)T.Koyama

ヤシ科 *Palmae*

ビロウ *Livistona chinensis*(Jaq.)R.Br.ex Mart
var.*subglobosa*(Hassk.)Becc.

サトイモ科 *Araceae*

クワズイモ *Alocasia odora*(Lodd.)Spach

トウズルモドキ科 *Flagellariaceae*

トウズルモドキ *Flagellaria indica* L.

ツククサ科 *Commelinaceae*

ホウライツククサ *Commelina auriculata* Bl.

ムラサキツククサ *Tradescantia reflexa* Raf.

ユリ科 *Liliaceae*

キキョウラン *Dianella ensifolia*(L.) DC.
f.*recemulifera*(Schiffner)Liu & Ying

ハマサルトリイバラ *Smilax sebeana* Miq.

リュウゼツラン科 *Agavaceae*

リュウゼツラン *Agave americana* L.
cv.*Marginata*

ショウガ科 *Zingiberaceae*

ゲットウ *Alpinia zerumbet*(Pers.)Burt & Smith

謝 辞

本稿の作成にあたっては宮古野鳥の会、多良間村役場の教育委員会、宮古教育事務所の川上勲氏、平良市総合博物館の饒平名里美氏に大変お世話になった。心から感謝したい。

摘要

- 1 1980年8月、1983年4月、1993年6月、1994年10月、1997年10月の調査結果と新聞や文献資料等から多良間島、水納島の鳥類目録を作った。水納島に関しては植物目録を付け加えた。
- 2 水納島では64科156種類の植物と14科26種類の鳥を記録した。
- 3 多良間島では42科129種類の鳥を記録した。その内訳は山野の鳥が69種、水辺の鳥が60種でその比率はおおよそ1:1であった。
- 4 多良間島は留鳥17種類で約13%、渡り鳥112種類で約87%、渡り鳥主体の鳥相である。
- 5 面積が小さい割には数多くの水鳥、山野の鳥が記録されている。
- 6 地形は単調で山も川もない平坦な島であるが渡り鳥にとって最適なか継地である。
- 7 宮古諸島においては他の地域に比べて渡り途中の山野の鳥類が多く見られる所である。
- 8 開発と緑を残す調和をどうするかが今後の大きな課題である。
- 9 多良間島のハシブトガラスは1972年頃を境にして姿をけしたようである。
- 10 現在多良間島の森林面積は24%で水源地域での水源涵養林、海岸や耕作地周辺の防風林、防潮林の計画的な造林が望まれる。

参考文献

- 池原貞雄監修 1990 いらぶの自然(動物編)
- いらぶの自然編集委員会 1995 いらぶの自然(植物編)
- 沖縄野鳥研究会 1993 沖縄県の野鳥 沖縄出版
「沖縄県統計年鑑」(平成3年~5年)
「沖縄の林業」平成6年度(沖縄県林務課、平成7年3月)
- 沖縄県企画開発部 1998 離島関係資料 pp46
- 沖縄県宮古支庁総務課 1996 宮古概観 pp3
- 久貝勝盛・山本晃 1981 宮古群島の鳥類目録 沖生教研会誌第14号 pp15~29。
- 久貝勝盛 1990 サシバと伊良部島 いらぶの自然(動物編) pp216~234。
- 1995 池間島の鳥 平良市総合博物館紀要第2号 pp79~86。
- 1996 日本におけるサシバの秋の渡り 沖縄県立博物館紀要第22号 pp153~172。
- 1996 平良市の鳥 平良市自然環境保全基本構想 pp149~160。
- 1996 下地町与那覇湾一帯の鳥類相 平良市総合博物館紀要第3号 pp85~103。
- 1997 伊良部の鳥 平良市総合博物館紀要第4号 pp35~56。
- 仲間勇栄 1996 宮古島の地下水と森林環境の保全 平良市自然環境保全基本構想 pp63~64。
- 初島住彦・天野鉄夫 1994 琉球植物目録
- 平良市教育委員会 1994 平良市史第9巻、資料編7(御嶽編) pp648。
- 古川博恭 1983 多良間砂層 沖縄大百科事典 pp729。
- 宮古観光協会 1978 南海の宮古島 pp65。
- 琉球政府経済局林務課「琉球林業の概要」(1957年2月) 7~8頁
- Wild Bird Society of Japan 1982 A Field Guide to the Birds of Japan.